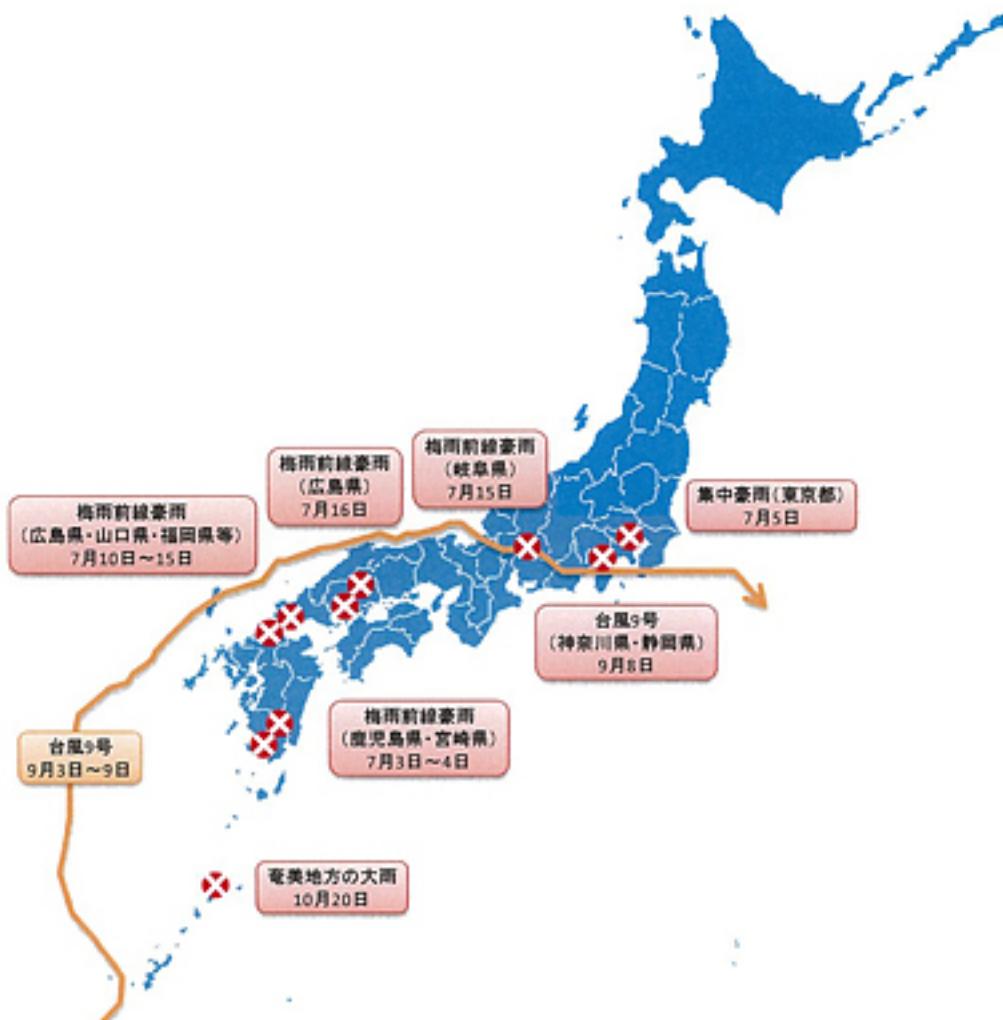


平成22年の公共土木施設の被災状況

出典：国土交通省

平成22年発生災害に係る国土交通省所管公共土木施設の被害は、直轄で約71億円(38箇所)、補助で約933億円(8,379箇所)、合計で約1,005億円(8,417箇所)が報告されている。過去5カ年(平成17年～平成21年)の平均被害額と比較すると、4割程度となっており、過去、最も被害報告額が少額となった昨年を下回る報告額となっている。なお、平成22年の査定決定額(723億円)は、平成20年の査定決定額(646億円)に次いで2番目に低い額となっている。

主な災害原因としては、7月3日からの鹿児島県・宮崎県における梅雨前線豪雨、7月10日から15日における中国地方から九州北部にかけての梅雨前線豪雨、7月15日の岐阜県可児市・八百津町等における梅雨前線豪雨、7月16日の広島県庄原市における梅雨前線豪雨、9月8日に主に神奈川県西部から静岡県小山町にかけて被害をもたらした台風第9号、10月18日から20日にかけての奄美地方における大雨などがある。これらの災害により、西日本を中心に全国各地で尊い人命と貴重な財産が失われた。



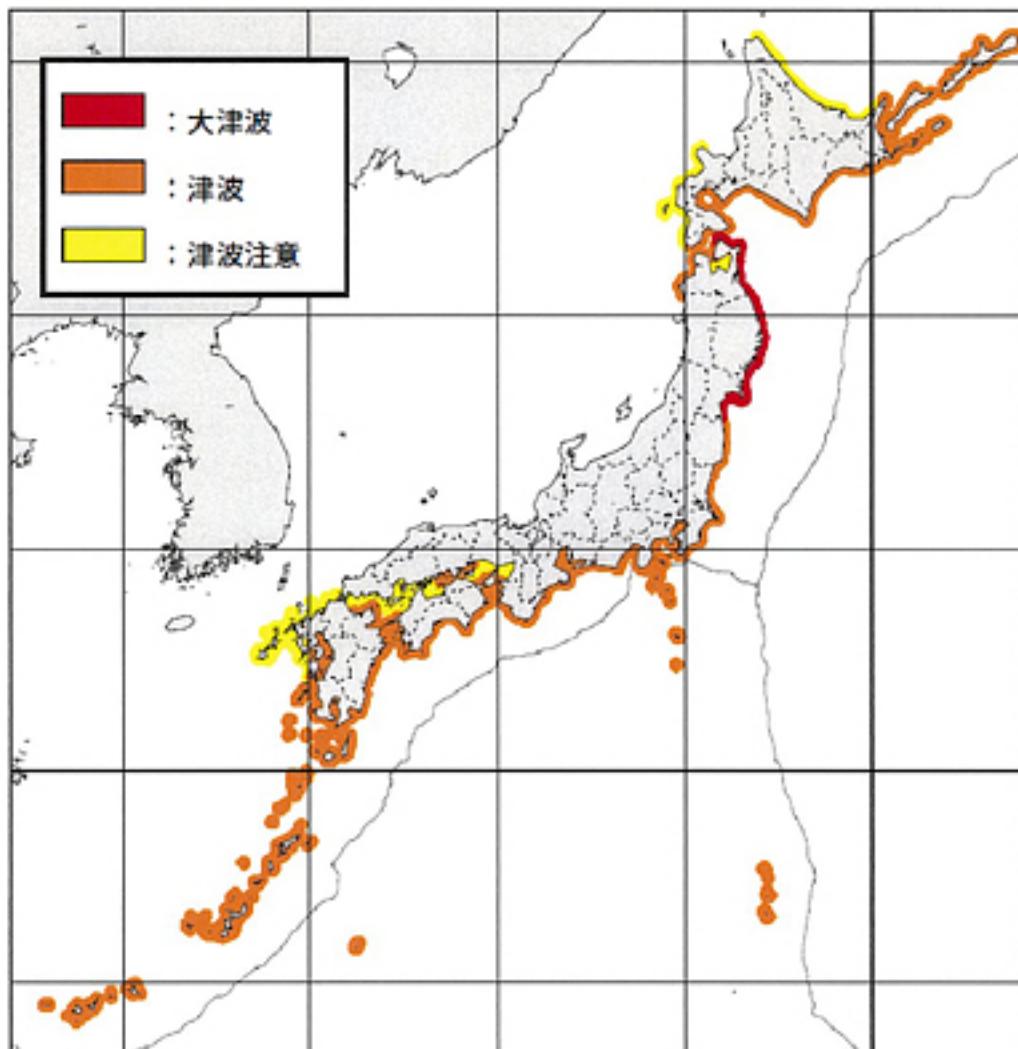
平成22年発生災害における主な異常気象

①チリ地震による津波について

2月27日、チリ中部沿岸の深さ約20km地点でマグニチュード8.8の地震が発生した。そのため、翌28日9時33分、津波警報および注意報が発令され、東北地方の太平洋沿岸では大津波警報が発令された。大津波警報が発令されたのは、平成5年7月の北海道南西沖地震以来、17年ぶりのことであった。

チリ地震による津波は、2月28日の午後から3月1日午前までの間に太平洋沿岸など各地に到達した。最大到達波高は、岩手県久慈港および高知県須崎港の1.2mであった。津波による浸水被害は、宮城県で床上浸水6棟、宮城県および静岡県で床下浸水51棟となった。

国土交通省では、28日9時33分に非常体制に入り、災害対策用ヘリコプターにより調査警戒を実施したほか、津波到達に備え水門の閉鎖や、津波の影響を受ける区間について一時通行止めを実施した。なお、国土交通省所管の公共土木施設については、被害はなかった。また、平成22年に国土交通省が非常体制に入った災害は、この1度だけであった。



津波警報・注意報の発表状況（2月28日9:33発表） [出典：気象庁発表資料]

②梅雨前線豪雨による被災状況等について

6月中旬から7月中旬にかけて、梅雨前線が九州から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。九州から東北地方にかけての広い範囲で大雨となり、局地的に1時間に80ミリを超える猛烈な雨が観測された。特に九州南部ではこの間の総雨量が1,500ミリから2,000ミリに達し、平年の2倍を超える雨量となった。

この大雨により各地で浸水被害や土砂災害が発生し、岐阜県可児市で可児川の氾濫により死者・行方不明者3名、八百津町で土石流により死者3名が発生するなど、7月1日から16日までの間に死者16名、行方不明者5名、負傷者21名の人的被害を受けた。

7月16日に発生した広島県庄原市の豪雨灾害では、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)を17日から27日までの11日間にのべ69名・日派遣し、現地の被災状況調査の支援、今後の土砂災害の危険性に関する技術的判断、災害復旧に向けての技術的助言等を行った。

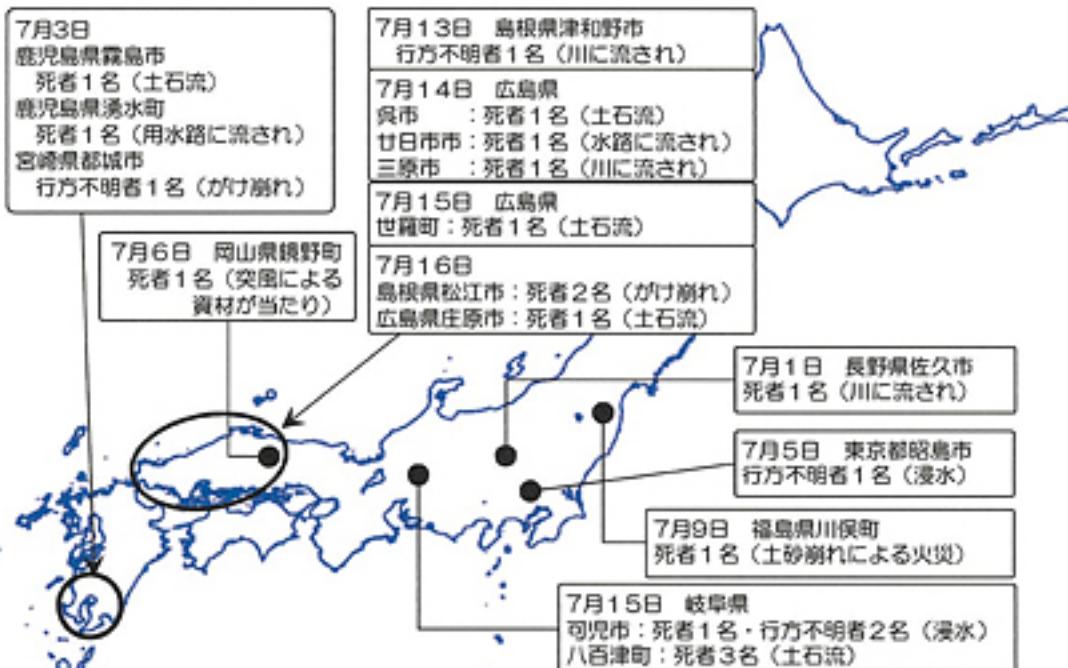
国土交通省所管の公共土木施設については、5,470箇所、約501億円の被害が発生した。(直轄・補助計)

○一般被害(消防庁調べ:平成22年9月9日時点)

人的被害(人)			住家被害(棟)					
死者	行方不明者	負傷者		全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
		重傷	軽傷					
16	5	6	15	42	74	208	1,786	5,702

○公共土木施設被害(国土交通省所管・補助)

	広島県	山口県	宮崎県	鹿児島県	岐阜県
箇所数	1,397	841	357	490	376
額(億円)	100	93	49	43	37





鹿児島県霧島市 主要地方道都城隼人線
の被災状況



鹿児島県大隅町の土石流



広島県呉市の土石流



山口県山陽小野田市 厚狭川の
氾濫による被災状況



岐阜県可児川の氾濫による被災状況



岐阜県八百津町の土石流



広島県庄原市の土砂災害



広島県庄原市 県道中迫川北線
の被災状況

③台風第9号による被災状況等について

台風第9号は、9月8日11時過ぎに福井県敦賀市付近に上陸した。（台風が北陸地方に上陸したのは気象庁が1951年に統計を開始して以来初めてのことであった。）その後、15時頃に静岡県内で熱帯低気圧に変わり、夜には関東の東海上にぬけた。

台風第9号の影響により、神奈川県山北町丹沢湖および小田原市では1時間降水量77.5mm、静岡県小山町付近では1時間降水量の解析雨量^{*}がおよそ120mmの局地的な大雨が発生した。日降水量は、神奈川県山北町丹沢湖で495.5mm、小田原市で238.5mmとなり、観測史上1位を記録した。

この大雨により、土砂が崩落し静岡県小山町の直轄国道246号が通行止めになるなど、静岡県や神奈川県などで土砂災害や浸水被害、道路崩壊などが発生した。中部地方整備局では緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を10日から15日までの6日間にのべ81人・日派遣し、小山町の被災状況調査を行った。

国土交通省所管の公共土木施設については、235箇所、約59億円の被害が発生した。（直轄・補助計）

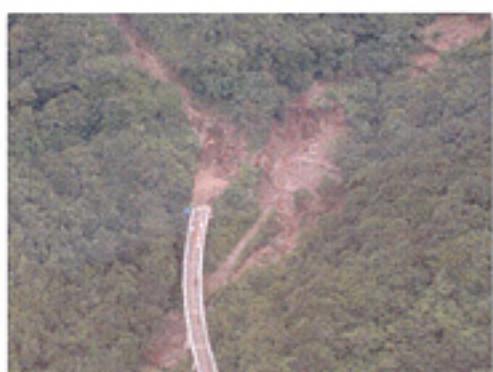
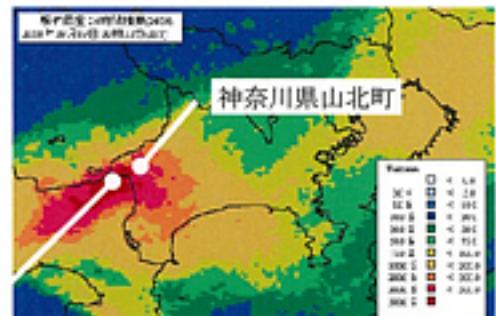
^{*} 解析雨量とは、気象レーダーにより観測された雨の強さを、アメダス等の雨量計により観測された雨量を用いて、解析・補正したもの

○ 一般被害（神奈川県および静岡県調べ）

県名	人的被害（人）			住家被害（棟）				
	死者・行 方不明者	負傷者		全壊	半壊	一部 破損	床上 浸水	床下 浸水
		重傷	軽傷					
神奈川	0	2	1	0	2	3	19	281
静岡	0	1	0	13	18	—	15	115

○ 公共土木施設被害（国土交通省所管・補助）

	静岡県	神奈川県	石川県
箇所数	146	8	44
額(億円)	48	3.0	2.6



静岡県小山町 国道246号の被災状況



静岡県小山町 町道足柄三保線の被災状況

④奄美地方における大雨による被災状況等について

10月18日～20日にかけて前線が奄美地方に停滞し、この前線に向かって南から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。この影響で奄美地方では、北部を中心に19日明け方から激しい雨となり、20日昼前からの解析雨量が1時間に120mm以上の記録的大雨となった。奄美市では、20日の最大24時間降水量が648.0mmとなり、観測史上1位の記録を更新した。18日～20日までの総降水量は、奄美市で10月の平年の月降水量の約3倍に匹敵する715.5mmを観測した。

この大雨により、土石流等20件、地すべり4件、がけ崩れ32件が発生し、奄美市においてグループホームわだつみ苑において入所者2名が死亡したほか、龍郷町においてがけ崩れにより倒壊した家屋の下敷きとなり1名が死亡した。

国土交通省では、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)を10月21日から11月5日の16日間にのべ299人・日派遣し、被災状況の調査や情報通信等に必要な機材の運用を行う等の支援活動を行った。

国土交通省所管の公共土木施設については、364箇所、約61億円の被害が発生した。(直轄なし・補助計)

○一般被害(消防庁調べ:平成22年11月26日時点)

人的被害(人)				住家被害(棟)				
死者	行方不明者	負傷者		全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
		重傷	軽傷					
3	0	0	2	10	479	11	119	767

○公共土木施設被害(国土交通省所管・補助)

	鹿児島県
箇所数	364
額(億円)	61



鹿児島県龍郷町の土砂災害

